

## 安定期気管支喘息患者のカプサイシン咳感受性に対する leukotriene 阻害薬経口投与の影響

石浦嘉久<sup>1</sup>, 藤村政樹<sup>2</sup>, 山本宏樹<sup>1</sup>, 大倉徳幸<sup>2</sup>, 明 茂治<sup>2</sup>.

(市立富山市民呼吸器内科<sup>1</sup>, 金沢大学大学院呼吸器内科<sup>2</sup>)

**【目的】**気管支喘息はアレルギー性気道炎症を基本病態の一つとする疾患であるが、咳嗽と慢性気道炎症との関係の詳細については明らかではない。気管支喘息患者の気道において leukotriene 発現が増強しているとの報告があるが、咳感受性に対する作用の詳細に関しては不明である。このため、カプサイシン咳感受性に対する leukotriene 阻害薬投与の影響について検討した。

**【対象と方法】**安定期気管支喘息患者21名 (49-83歳;平均 71.0歳) を対象とした。既報の方法によりカプサイシン咳閾値を測定した後に、leukotriene 阻害薬である montelukast 10mg/日または対照薬を2週間 cross-over法で投与した。

**【結果】**leukotriene 阻害薬 投与により気管支喘息患者の呼吸機能は変化せず、カプサイシン咳閾値も変化しなかった。

**【考察】**気管支喘息患者の気道において、leukotriene は咳受容体感受性に関与しないことが示唆された。